

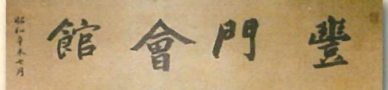
館内図

1F

2F

「豊門会館」 渋沢 栄一 筆 (1840~1931)

資本主義の父と言われる渋沢と和田は昵懇の仲にあった。渋沢の孫である敬三が結婚する際には、和田が仲人を務めた。



「六合山荘」 勝 海舟 筆 (1823~1899)

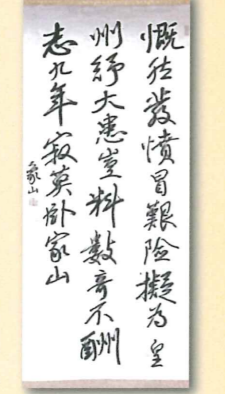
富士紡の初代会長の富田鉄之助が、小山の地に構えた住居の称号。富田は勝海舟の門下で、俊英と謳われた高弟であった。



ギャラリー

佐久間 象山 筆 (1811~1864)

幕末の兵学者、朱子学者、思想家。門下に勝海舟や吉田松陰がいる。軸は勝海舟から富田鉄之助に渡ったものだと思われる。



- アクセス / ● 駿河小山駅から1.4km
- 東名高速道路 足柄スマートICから10分



豊門公園内 豊門会館

■ 休館日：火、水曜日、年末年始 (祝祭日の場合は開館し、振替休館します)

■ 開館時間：午前10時から午後4時まで

■ 入館料：300円 お問い合わせ 西洋館 TEL 0550-76-1980

豊門会館 HOMON HALL

富士紡績の歴史とともに佇む

国登録有形文化財 小山町

豊門会館の歴史

豊門公園は、ここ小山町の近代化の礎を築いた富士紡績(株)が優れた景勝の地を選び、従業員及び地域住民に修養・教育・保健・慰安場を提供することを目的に造られた。大正14年(1925)東京向島あった初代社長の和田豊治の邸宅を移築し、町や町民協力のもと館、宿舍及び庭園の築造、整備したものが始まりである。そして、翌の大正15年5月16日に盛大な開会式が執り行われた。

「豊門」という名称は、初代社長の和田 豊治の「豊」と、富士紡の「門」と称せられた森村 市左衛門・日比谷 平左衛門・濱口 吉右衛門三翁の「門」をとって名付けられた。

平成16年度(2004)小山町はこの公園を富士紡績(株)から購入し、翌17年には正門、噴水泉、和田君遺惠碑、豊門会館(和館・洋館)、西洋館が、国の登録有形文化財として登録された。平成29年度(2017)から31年度にかけ、公園の修景、豊門会館及び西洋館を改修した。



和田 豊治 Wada Toyoji  
文久元年(1861)12月19日~大正13年(1924)3月4日(62歳没)

明治34年(1901)に富士紡の専務取締役になり、家族で小山に入る。当時、倒産の危機にあった富士紡を再建させた。大正元年(1912)には、菅沼村と六合村の合併に際し富士紡株100株を贈呈し、新小山町の誕生に尽力した。また、創立に携わった会社は数十社をえ、渋沢栄一に続く大正時代の「財界世話人」として君臨した。



森村 市左衛門 Morimura Ichizaemon  
天保10年(1839)12月2日~大正8年(1919)9月11日(79歳没)

森村グループ(ノリタケ・TOTO・日本ガイシ・日本特殊陶業)創設者。富士紡設立時の出資者である森村は「森村一家の財産なものはや問題ではない。富士紡がこのまま倒産するようなことがあれば、森村を信じ投資した多数の株主に申し訳がない。」と、再建奔走した。



日比谷 平左衛門 Hibiya Heizaemon  
弘化5年(1848)3月25日~大正10年(1921)1月9日(72歳没)

明治29年(1896)に東京瓦斯紡績を設立し専務取締役として経営にあたっての最中に、森村から富士紡の再建を懇願された。明治33年7月に専務に就任するも兼務は所詮無理であった。田豊治を重用した後、富士紡と小名木川綿布、東京瓦斯紡績の併に尽力。「日本紡績界の巨人」と謳われた。



濱口 吉右衛門 Hamaguchi Kichiemon  
文久2年(1862)6月13日~大正2年(1913)12月11日(51歳没)

家業である醤油醸造販売業、植林事業を営む。のち、衆議院議員を3期(1896~1902)、その間、財政整理国本培養論を献策し重される。鐘淵紡績重役の後、富士紡創立時に監査役に就任し、明治34年(1901)には富士紡の会長職に就き更生の任に当たった。